



がくじ



摂南大学図書館報

No. 49

1997. 4

学而時習之、不亦説乎。（「論語」より）

一学びて時にこれを習う、亦た説^まばしからずやー^{よろこ}

*題字は王羲之の書による

書き言葉の機能

図書館長

かみの
神野けいちろう
慧一郎

人間の言葉には「話し言葉」と「書き言葉」とがある。どちらが先に成立したかといえ、むろん、話し言葉である。ホメロスの詩もわが国の『古事記』も、最初は語り伝えである。

「話し言葉」と「書き言葉」とでは、言語としての機能が異なる。「話し言葉」として喋った場合におもしろいことも、「書き言葉」としてはかならずしもおもしろくない。もちろん、逆もまた然り、であろう。たとえば、「漫才はむしろ論理やつじつまが飛躍しなければならない。飛躍のあざやかさこそ漫才の本領」である、とある作家が言っている。しかし、お喋りでは許される論理の飛躍も、書き言葉になると許されない。耳で聞くことの内容に対しては、許容度が高い。語られていることの多少のずれや飛躍は、気にならない。しかし、目で読む場合はそうはいかない。「目は、じつに、うるさい」。

しかし、このことを逆に言うとうなるであろうか。目で読む文章は、単に感情移入の機能だけではなく、むしろより思索的であり、それはつまり主観的であるよりは客観的であることを目指している、ということではないか。

画像も目に訴えるものである。テレビの普及にともない、現代は映像文化の時代と言われる。いわゆる劇画の流行もそのことに即応しているのであろう。画像こそは、客観的伝

達の極めつきの手段だと思われるかもしれない。しかし、画面のみによる情報伝達は、案外客観性を持たないのである。もちろん「ヤンバルクイナ」はどんな動物であるかを知るには、画像を見ることが有益である。それは、「あっ、わかった」という一種の感じを与える。しかし、その画像を見てなにを把握するかは、実に人により千差万別であろう。つまり、言語抜き画像文化は、主観的なものである。それを「語り」でどこまで客観的なものとしうるのか。ここでそのことは論じない。

電子メディアの現代においては、書物はすたれていく、と言う人がいる。世の流れはそうであるかも知れない。しかし、そうであるとすれば、それは人間が、しだいに思考することをやめていく傾向にあることを肯定することだけのことである。

書物のもつ不動性、つまり書かれた文字のもつ不動性は、却って思索を助けるものである。より不動な仕方では表された文字が、より思索の助けとなる。パソコンの画面で見る言葉は、聞くだけの言葉よりも不動であり固定的であろうが、書物の中の文字ほどには不動ではない。つまり、思索の支えとしては、その分だけ弱いのだ。

電子メディアの普及を事実として認めつつも書物に拘泥する学者がいるのは、単にノスタルジアのせいだけではない。

新生に贈る図書館利用のすすめ

図書館でお会い しましょう

工学部土木工学科助教授
ひらき ひろかず
平城 弘一



私は一年を通じて、図書館のもつ機能（単行本（専門書・関連書籍・一般書）、雑誌（新着・バックナンバー）の所蔵調査と文献複写サービス）をフルに活用させてもらっている一人です。ここでその一端をご紹介します。

最近は何の内外における文献の複写あるいは取り寄せ（ヨーロッパでは著作権の関係で、コピーを簡単にしてくれないこともあるので）

を利用している。また、新しい分野の研究に取り組みたいと考えたとき、JOISによる文献検索に頼っている。これまでと違って、文献検索がオンラインで当大学に居ながらできるのは大変ありがたい。この種の検索に関しては、実に世界は狭くなったと感じられます。これらの方法で収集した資料は、体系づけて、教育面・研究活動あるいは卒業研究の指導に役立たせている。

新生諸君、大学の図書館でお会いしましょう。大学において色々な発見があると思う。そして是非、参考図書・雑誌・各種視聴覚資料に関して、気軽に図書館員の方々に相談してもらいたい。

今後、図書館を利用し、目的意識をもって大切な大学生活を過ごして下さい。

「知的好奇心」 創造のために

国際言語文化学部講師
うらの たかお
浦野 崇央



まずは、5F、そこには、いろいろな国や民族のこぼれで書かれた新聞があります。その一つを手にとってみましょう。一文一文の意味はわからなくても、広告や写真を見て、何かを感じることでしょ。その「感じ」が世界に対する眼差しなのです。そして、その感性が君の「知的好奇心」を広げることになるのです。「知的好奇心」は、身近なものを通じて、自ずから創り出していく努力（積極的な姿勢）によって生まれてきます。これまで、いわゆる「語学嫌い」になって外国語（特に英語）から遠ざかってきた君達、躊躇せず外国語に接してみましょう。そうすると、辞書片手に単なる文字の配列を追うだけでない「何か」に出会うはず。その「何か」こそ君の「知的好奇心」の根源なのです。自己の感

性を信じて、その「何か」をもっと追及してみましょう。図書館は、世界と結びついたネットワーク網、レファレンスサービスや学内外図書館利用サービスなどを行っています。それらは、君が「何か」を見つけ、追及する手助けとなります。4年間の学生生活の中で、「知的好奇心」をどれだけ世界の隅々まで向けられるのか。それが君達に託された重要な課題なのです。

図書館を 探索してみよう

経営情報学部
経営環境情報学科助教授
すぎもと あつのぶ
杉本 篤信



講義の空き時間があると暇を持て余してしまうという話を聞く。確かにキャンパス内やその付近にはくつろげるゲームセンターや店などはない。でもそんな時間こそ、自分だけの時間を満喫できる最大のチャンスではないか。

図書館は、それができる最適な場所である。まず雑誌、新聞でも読みにいこう。大学生な

ら新聞を毎日読んでおいたほうがいい。雑誌も多く種類があるので、きっと君の趣味に合うものも見つかるだろう。

次が英語の講義なら、閲覧室で辞書を引いて予習しよう。静かでエアコンもあるので自宅より集中できる。たまには専門書も読んでみよう。講義でわかりにくかったこともテキスト以外の本で読めば、わかりやすいかもしれない。6階に行けば、文庫本やベストセラーのコーナーもあるのだ。ゆっくり読みたいものが見つければ、貸し出してもらえばいいのだ。探すのが面倒であれば、検索システムを利用することだ。欲しい本が図書館になれば、要望を出して購入してくれる制度もある。

4階に行けば、語学のテープやビデオ、CDもある。たまには映画や音楽で気分転換もいいかもしれない。奥には学術雑誌も並んでいる。新入生には難しいかもしれないが、たまには背伸びしてのぞいてみるのも悪くない。

君たちにとって、図書館は宝島だ。まずこの宝島を上から下まで探検してみよう。道先案内は先生や司書の方たちである。積極的にいろいろ聞いてみよう。一人で迷ってみるのも面白い。是非探検して、君だけの宝物を見つけたして欲しい。

未知との 出会いを求めて

薬学部薬学科講師
あんどう あきつ
安藤 章



図書館はとても魅力的なところであり、なじみの少ない分野の書架の前では感動することもある。そこでまず、どのような本があるか一通り眺めることを勧める。すると世の中にはいかに沢山の自分の知らないことがあるのかとびっくりすることだろう。大学生活で自ら進んでどれだけ沢山の未知のことに出会い、興味をもつことができるか。その未知との出会いが多ければ多いほど広い分野の知識が増え、様々な発想を生み出す基を作ることができる。いろいろな事に興味をもち、視野を広めよう。そのために図書館を大いに利用

しよう。なお、大学の図書館だからといって専門書だけがあるわけではない。新聞、雑誌、小説、カセット、ビデオ、CDなど教養・娯楽に関する人それぞれに興味のある分野の情報も網羅されている。まずは行って何があるか探検してみるといい。なにもテスト勉強、レポート作成のときだけ利用することもあるまい。静かで空調の効いたところでリフレッシュするのもよい。長いようであつという間に過ぎてしまう大学生活。まずは図書館に行って自分なりの利用法を見つけ、さらに様々の未知との出会いを楽しんではどうか。

法学部学生と図書館

法学部助教授
おおき やすし
大木 康



法律学は、基本的に、情報処理のような実習や、物理・化学のような実験の学問ではありません。それでは、法律学には、どのようなイメージがあるのでしょうか？

あえて誤解を恐れずにいえば、法律学は「言葉」の学問です。法学部では、例えば、法律や契約を解釈したり、立法史料を解説したり、学説（思想）や判例（判決）を検討したりします。これらについて、図書館所蔵の図書、雑誌が、ほぼ唯一のマテリアルなのです。法律学を学ぶ者にとって、図書・雑誌が宝物であり、生命なのです。もし、全く図書館を利用しない法学部学生がいれば、それはとても残念なことです。

最近は、国家試験、就職試験のために、法学部に入学する学生が増えているようです。大学は、かなり専門的な文献を所蔵しています。よき指導者とよき友にも恵まれています。そこが大学で法律学を勉強する最大のメリットです。とにかく、図書館を利用して、どんどん本を読んでみてください。その繰り返しで、「言葉」に対する、センシビリティとコモンセンスが培われ、リーガルマインドが養成されると思っています。

卒業生からのアドバイス—私の図書館利用法—

私にとっての図書館

工学部電気工学科 97年卒
しながわ しゅん
品川 淳



私にとって、大学生活における図書館は、レポート課題を作成するための作業室のような場所でした。

大学の授業で課されるレポートには難しいものがあります。特に工学部では実験が多くあり、実験レポートを作成しなければなりません。実験レポートは、研究課題で必ず文献調査をしなければなりません、文献はいろいろなものを参照して理解しやすいものを選

ばなくてはなりません。このため、本がたくさんある図書館に頼らざるをえませんでした。また図書館は、本の貸出だけでなく、自習できるスペースもあるので、レポートを作成するには最適の場所でした。静かな雰囲気の中で、参考書となる数多くの文献に囲まれていると、レポート作成もスムーズに早く仕上げることができ、私にとっての図書館は自分の部屋のような最高の場所でした。

図書館はいろいろな方法で楽しむことができます。楽しんで勉強すれば、自然に知識が増え、授業の成績も良くなってきます。新入生のみなさんも自分なりの図書館の利用方法をみつけ、楽しく勉強し、良い大学生活を送ってください。

「貴本」との出会い

国際言語文化学部 97年卒
うめはら てつや
梅原 哲哉



私は、摂南大学の図書館は結構充実している様に思います。4階では、ビデオやテープを通して語学学習が効率よく出来たり、5階では、雑誌、新聞等から最新の情報を得たり出来るからです。そして何より摂大図書館が便利なのは、CD-ROM版検索機を用いてkeyword検索が可能であったり、おすすめ本の棚や、テーマ別本の棚等がある事です。この様にあらゆる方法で読みたい本へのアクセスが可能な摂大図書館を新入生の方々も有効に利用してほしいと思います。私の4年の大学生活においても図書館の存在は欠かせないものでした。私の利用法は、自分の疑問点を図書館で調べ、先生方や友人と議論するというもので、結果、多くの自分の人生を左右する「貴人」と呼べる先生方や友人と出会うと

共に、「貴人」といえるべき本「貴本」とふれる事が出来ました。そして多くの世界を提供してくれた図書館は私にとって「貴本」の宝庫でした。是非積極的に図書館を利用してより多くの「貴本」と出会う事を新入生にすすめます。

図書館は時間の味方

経営情報学部
経営情報学科 97年卒
まつもと そういちろう
松本 宗一郎



私も何度か大学の図書館を利用していますが、この場合は試験前及びレポート提出のときの参考書探しがほとんどです。つまり、自己啓発の為の利用の仕方ではありません。

私のもう一つの利用の仕方と言えば、皆さん誰もが経験するでしょうが、授業を受けに大学へ来てみると、いつも一緒にいる友人がいなくて、一人で行き場を失ってしまう事があります。私の経験として、この時とりあえず食堂に行くのですが、一人であるのが少し寂しいので、読みたくもない教科書を読んで

いる様にカモフラージュしたこともあります。こんなときに、図書館の設備を利用するんですよ。基本的に図書館は一人で行くところというイメージがあるので、まず違和感がありません。さらに、空調設備が万全なので、かなり快適です。端の席に座り寝るのもよし、勉強に関係のない雑誌を読むのもよし、いろいろ利用の仕方はあると思います。

うまく図書館を利用すれば、有効的に時間が過ごせるでしょう。利用法については、オリジナルで構わないわけですから“図書館＝勉強”と考えずに気軽に足を運んでみてはどうでしょうか。

最後に、試験やレポートの為に参考書を借りようと思うのなら、テーマが分かり次第すぐに行ったほうがいいですよ。文献の数はかなり多いですが、早いもの勝ちですからね。

自分流の利用法

薬学部

衛生薬学科 97年卒

もり やすずみ
森 康純



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

私は、図書館を利用する時は、ほとんど限られた期間だけであったと思います。しかしながら、その限られた期間であっても、私にとっては、非常に有意義な時間でもありました。例えば、絶対と言っていい程、特に薬学部にとっては、1、2回生のレポート作成を図書館以外で行う事はほとんど不可能であると思われます。と言いますのも、高校時代とかと比べて、あまりにも莫大な量と、「こんな単語聞いたことないやんけー」というような事が、日常茶飯事に起きるからです。でも、図書館に入れば、心配御無用。せっせと文献を探せば、必ず自分の知りたい内容についての説明をゲットできます。それに、「あ～レポート作成しんどいなあー」と思えば、週刊誌や月刊誌のおいてある棚へ、「レッツゴー」というような感じで、一時の休息にも

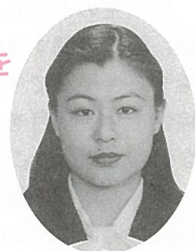
利用できます。又、私は3回生の最後ぐらいに、就職についての本、特に製薬業界についての本を読みあさりにもいきました。

このように、私たちの大学の図書館には、色々役立つ面があり、ご入学される皆さまは、更に新しい図書館の利用法を開拓してください。

あなたなりの利用法を見つけて！

法学部 97年卒

よしざき
吉崎 みどり



新入生のみなさんにおたずねします。大学生活を有意義かつ効率的に送るうえで最も利用価値の高い施設は何だと思いますか？人によって答えは様々ですが、私に限っては「図書館」と言い切ります。大学ではレポート提出が多く課されますが、その時必要な資料はほとんど図書館にそろっています。資格取得、就職対策に必要な参考書も、買うには少し高いなと思った文庫本も、はたまた情報雑誌も図書館にはそろっているのです。図書館は堅苦しい場所だという認識の方にはその概念は捨てることをおすすめします。“学”から“遊”までそろっている場所を誤った認識の為に敬遠するなんてもったいないと思います。私が情報（それが学習であっても娯楽であっても）が欲しいと思った時に最初に足を向けるのは図書館でした。図書館には私を満足させる答えが必ずありました。

もう一つ是非知らせたいことがあります。それは、図書館は摂南大学の施設内で一番快適な空間であるということです。冷暖房は言うまでもなく、一つ一つ区切ってある机、すわりごごちの良い椅子（特に図書館の椅子は私のお気に入りです。）VTRブースなど。

人からいくら言われても仕方ありません。百聞は一見にしかずです。あなたのその目で体で確かめて下さい。そしてあなたなりの利用法を見つけてこのすばらしい図書館を使いこなして下さい。図書館はあなたの期待を裏切ることはありません。きっとあなたを満足させてくれることでしょう。

CD-ROMと オンラインデータベース紹介

新入生のみなさん、大学の授業では、レポートの提出を求められることがよくあります。その際、課題に関する情報をCD-ROMやオンラインデータベースなどの電子メディアによって検索すると便利です。これらの電子メディアには、検索のスピードが早い、検索できる範囲が広い、検索できる項目をいくつも選んで複合の検索ができる、該当データベースの範囲の中で、網羅的な情報を集めることができる、などの特徴があり、本や雑誌で調べるよりはるかに能率的です。

現在、本学の図書館で利用できるものを次に紹介しますので、ご利用ください。今後、種類が増えた場合は、この学術の紙面等で逐次紹介します。

利用申込など詳細については、メインカウンター（本館5F、分館2F）にお問い合わせください。

<本 館>

データベース

・NACIS-IIR

人文・社会・自然科学の分野にわたって膨大な学術情報を提供。各学会の全国大会・研究会における研究発表の概要情報を提供する「学界発表データベース」など、59のデータベースが利用できる。

・JOIS

世界の科学技術全分野の文献情報が日本語で検索できるJICSTファイル、国内の医学文献を収録したJMEDICINEファイルなどが利用できる。

・DIALOG

400種類以上のデータベースを搭載した世界最大のオンラインシステム。ビジネス、法律、ニュース、特許、科学技術、社会科学等、多岐に渡る分野の情報を提供している。

・日経テレコン

各新聞・辞典類の記事検索、企業の財務・人事等のビジネス情報、科学技術、経済情報など多様なメニューが用意されている。

CD-ROM

・CD-HIASK・朝日新聞記事情報('85~'95)

・日本経済新聞CD-ROM版 ('90~'95)

・雑誌記事索引 ('90~'96)

・CD-新現代日本執筆者大事典

・科学技術文献速報('95)

①電気工学編 ②機械工学編

③土木・建築工学編 ④管理・システム技術編

⑤環境・公害編

・法律判例文献情報 ('96)

・JICST資料所蔵目録 ('95)

・世界大百科事典(Windows版)

・第45回日本統計年鑑

・岩波電子日本総合年表

・広辞苑 第4版CD-ROM(カラー)版

・三省堂ワードハンター

・経済白書

<分 館>

データベース

・JOIS

・DIALOG

・STN INTERNATIONAL

日本・米国・ドイツを繋ぐ科学技術情報のオンラインネットワークシステム。

化学分野の最大データベースであるCAファイルが抄録付で利用できる。

CD-ROM

・MEDLINE

米国医学図書館が作成する世界の医学文献約3,500誌の書誌索引と抄録を収録し、毎月更新される最新データを検索できる。

・医学中央雑誌

国内の医薬約2,300誌の定期刊行物などから年間24万件の文献の書誌索引と抄録を収録し、キーワード等から検索できる。データは毎月更新される。

・第十二改正日本薬局方解説書

第十二改正日本薬局方解説書的全データを収録し、医薬品等の関する、さまざまな情報をキーワード等から検索できる。

(注) CD-ROMの利用は無料ですが、データベースの利用については種類によって使用料金が必要ですので、係員にお尋ね下さい。

📖 図書館員が薦める一冊 📖

「睡眠不足は危険がいっぱい」

スタンレー・コレン著

文藝春秋 (498.36 C)



人は1日のおよそ3分の1の時間を眠りに費やすと言われています。それほど長い時間を費やすのに、睡眠がないがしろにされていることが多い。日本でも「早起きは三文の徳」と言われてきたように、長く眠る人が褒められることはあまりない。しかし、本書を読めば、睡眠不足の怖さ、睡眠がいかに重要であるかがよく分るでしょう。

チェルノブイリ原子力発電所の重大事故、原子炉溶解寸前までいったスリーマイル島の事故、大規模な環境破壊につながった石油輸送船エクソン・ヴァルディーズ号の原油流出事故、そしてスペースシャトル「チャレンジャー」号爆発事故、これら4つの事故はいずれも、眠りが足りない人々によるミスが原因であったという衝撃的な事実が本書では述べられています。1986年4月に起きたチェルノブイリ原子力発電所の重大事故を例にとると、この発電所のオペレーターは、事故当時、「心身ともに疲労困憊してその眠気は頂点に達して」おり、「睡眠不足の人の典型として、作業能力が低下しており、細部を綿密に点検する気力に欠けていた」。そして、自動安全装置を全部切っしまい、原子炉内の温度が上がるという問題がおきたとき、自動安全装置のスイッチを入れ直すといった簡単なこともできなかったというのが真相だそうです。

人はどれほど長く眠られずにいられるか？ 本書では、1964年1月に当時17歳の高校生であったランディ・ガードナーが11日間・通

算264時間という長時間不眠（何故11日間なのか？それは、成功すれば当時のギネスブックに登録されるからである）の実験に挑戦した例が紹介されています。世界記録は樹立したが、不眠実験の間ランディの精神状態が全般的に悪化していったという記録が残されています。

若者はよく徹夜をくり返して試験勉強などにとり組みますが、それは本当に有効なのでしょうか。徹夜の勉強は、「丸暗記したものを『吐き出す』ふんには有効だが、覚えたものを応用して問題を解決したり、複雑な問題や観点について議論を展開する場合には、あまり有効ではない」ということで、頭を使うときは徹夜はよろしくないと言われています。

しかし、歴史上、短眠で成功した人物としてナポレオンやエジソンがよく引き合いに出されます。この場合はどうなのでしょう。本書は、「ナポレオンはほんとうに4時間しか眠らなかったのか」の章で、彼等の短眠に疑問を投げかけています。ナポレオンには自分の睡眠時間を少なめに言う傾向があり、エジソンには、昼寝の習慣があったということで片付けています。

皆さんもこの本を読んで、睡眠不足の怖さ、睡眠の大切さを知ってください。

特に新入生の人達は、生活も環境も変わり睡眠不足になるケースが多いと思いますので、充分にご注意ください。

(奉仕係 玉置 佐智子)

～睡眠に関する図書の一部～

- | | | |
|--------------|-----------------------|-----------------------|
| ①午前3時に目がパッチリ | Coleman, Richard M. 著 | 日経サイエンス社 (498.36 C) |
| ②睡眠の科学 | 鳥居 鎮夫著 | 朝 倉 書 店 (491.371 T) |
| ③夢見る脳 | Hobson, J.Allan 著 | ど う ぶ つ 社 (491.371 H) |

「フマーニオール・コーナー」新設

図書館では今年度から、より豊かな人間性を築き、より深く広い心を涵養する手がかりになると思われる図書を集めた「フマーニオール・コーナー」を本館普通図書室(6F)と分館普通図書コーナー(2F)に新設しました。このコーナーの図書の選定にあたっては、本学各学部の先生方にご協力いただきました。

今回このコーナーに選ばれた図書は、V. フランクルの「夜と霧」、M.エンデの「モモ」、プラトンの「ソクラテスの弁明」、森毅の「まちがったっていいじゃないか」など約200タイトル。どの図書も選書にあられた先生方が「こころの糧」として推薦されたものばかりですので、読後に大きな感銘を受けられることと思います。皆様のご利用をお待ちしています。

「フマーニオール・コーナー」 とは

「フマーニオール(humanior)」というのは、ラテン語の「フマーヌス(humanus)」の比較級の形であり、「フマーヌス」は、英語の「ヒューマン(human)」つまり、「人間的な」という言葉の語源である。それゆえ当然「フマーニオール(humanior)」は、「より人間的な」という意味である。

このコーナーにこのような名がつけられた理由は、もちろん、より豊かで暖かい人間性をもつ若人がこの学窓から巣立っていくことを願うという、このコーナー設立の主旨をいづらか明らかにするためである。

第2回阪神地区機械化研究会開催

本学が世話人校を務める私大図書館協会平成8年度第2回阪神地区機械化研究会が2月27日、本学寝屋川学舎7号館第2会議室で開催され、阪神地区、京都地区に加盟する41大学から67人の参加がありました。

この研究会は、コンピュータなどを用いて、図書館機能の向上を目指すもの。今回の統一テーマは「さまざまな機械化事例」で、つぎの3題の発表がありました。

「WWWブラウザを利用した画像データの提供」

(神戸芸術工科大学図書館 上網秀治氏)

「フランスにおける図書館機械化の現状について」

(流通科学大学図書館 槻本正行氏)

「学情・自動登録機能を取り込んだ図書館システム」

(帝塚山学院大学図書館 柏田雅明氏)

編集後記

★新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

★今号は新入生歓迎号です。先生、先輩からの貴重なアドバイスを満載していますので、ぜひ参考にしてください。

★本学の図書館には、新入生の皆さんが4年間で勉強する分野の代表的で、入門的な図書を集めた「入門書コーナー」があります。まずは、このコーナーからスタートです。

★今号にご協力いただいた皆様に心から感謝いたします。

摂南大学図書館報「学而」No.49 1997.4

編集・発行 摂南大学図書館 本館 〒572 大阪府寝屋川市池田中町17-8 TEL. (0720) 39-9112
枚方分館 〒573-01 大阪府枚方市長尾峠町45-1 TEL. (0720) 66-3102
印刷 (株)関西廣済堂 〒560 大阪府豊中市堂池西町2-2-1 TEL. (06) 855-1100